

令和4年度第2回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

令和4年11月22日(火)午前10時30分～午前11時00分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

・スポーツ推進審議会委員:9名

金内晴夫会長、花井篤子副会長、小林照美委員、信定学委員、柴田宏樹委員
竹内由紀子委員、石崎朋子委員、小川泰雅委員、五十嵐拓也委員
(欠席:古川孝行委員、奥村翔委員)

・教育委員会事務局:6名

伊藤教育部長、佐藤教育部次長、堀井スポーツ課長、稲垣スポーツ課参事、
井上スポーツ係長、今井スポーツ課主査

3. 開催結果

(1)開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

(2)あいさつ

金内会長・教育部長からあいさつ

(3)報告事項

報告事項(1)江別市体育施設条例の一部改正について

・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ係長)

報告事項(1)江別市体育施設条例の一部改正について、報告する。

資料の1ページをお開き願う。

初めに改正の理由だが、今年度、江別市あけぼのパークゴルフ場の増設工事を行っていたが、先日、工事が無事終了したという報告を受けている。

今回の工事にて増設した9ホールが、令和5年度から供用開始となり、全36ホールのコースとなることに伴い、料金の見直しを行うため、江別市体育施設条例の一部改正を行おうとするものである。

2 算定方法に移る。今回の増設に伴う原価を計算したところ、371円となり、現行の使用料金との乖離率が54.6%であった。

本来ならば使用料金を371円に改定するところだが、算定額と現行料金に著しい差が生じた場合に、改定の限度をここまでにするという、改定限度が市の方針で設けられており、今回の場合は25%が限度となった。

これにより、現行の240円に125%を乗じて、高校生・大学生・一般の料金を300円と算定した。

3 改正の内容だが、先ほど算定した高校生・大学生・一般の料金を基準として、他の区分の使用料についても、これまでの区分ごとの設定に応じて、それぞれ表の通りに見直しを行った。

また、これまでの利用状況等から、27ホール券、追加9ホール券、回数券を廃止した。

4 施行期日についてだが、この条例の交付の日から12カ月を越えない範囲で、教育委員会規則で定める日から施行することとしている。これは、予定だと来年の5月1日に新コースを含めてオープンすると考えているが、新コースの芝の定着状況等により遅れる可能性もあることから、新コースがオープンできる日に合わせて使用料金を変更できるよう、柔軟に対応可能にしたものである。

次ページをお開き願う。

あけぼのパークゴルフ場増設の概要を記載している。

初めに概要だが、平成9年度に18ホールにて供用を開始し、平成16年度に9ホールの増設を行って、27ホールにしている。

平成30年度、令和元年度には市内の民営パークゴルフ場が閉鎖したことにより、当ゴルフ場の需要が高まり、令和2年度に江別市営住宅長寿命化計画が策定された際に増設予定地がパークゴルフ場の拡張など地域の魅力増進に資する土地利用を検討するエリアとされたことから、新コースの増設が決定されたものである。

次にコース概要だが、こちらの表の通りとなっており、新コースについては、コース面積6,421㎡、コース距離431mとなっている。

次ページをご覧ください。

新コースはDコースとなるが、Dコースを含めたあけぼのパークゴルフ場全体の予定図を掲載している。

次ページをお開き願う。

参考として今回の条例改正における新旧対照表を掲載している。

【質疑等】

○五十嵐委員

前回の審議会でも市内・市外の利用者の分けについて検討するという話があっ

たが、今回の報告だと、区分けは設けていない。これは他の施設、例えば森林キャンプ場などでも区分けは設けていないので、検討の結果、ここも区分けは設けなかったという理解で良いか。

○事務局(スポーツ係長)

委員お見込みのとおり、今回の改正では検討は行ったが市内・市外利用者の区分けについては改正を見送っている。市外の利用者呼び込みたい意図もあるということ、市内利用者には団体区分の適用も可能だという理由からである。

また、今後の利用状況を確認して検討は続けていきたい。

報告事項(2)令和5年度全国高等学校総合体育大会江別市開催競技の変更について

・スポーツ課参事から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ課参事)

令和5年度全国高等学校総合体育大会江別市開催競技の変更について、ご報告する。

「1 当初の予定」では、表に記載のとおり、江別市では、ホッケーと水泳の飛込・競泳が、記載の日程で、野幌総合運動公園を会場として開催されることが決定していた。

「2 開催競技の変更」として、このうち水泳の飛込が他県開催となった。

理由として、競技に使用する設備に不具合があり、必要な改修の費用が想定よりも大きく、工期も長期間かかることが判明したためである。

このことから、施設を所有・管理する北海道は、新たな開催地として、栃木県宇都宮市の「日環アリーナ栃木屋内水泳場」での開催を決定した。この会場は、今年、国民体育大会「とちぎ国体」が開催された会場である。

なお、現時点では、主催や競技日程等については、未定となっている。

【質疑等】

○金内会長

野幌総合運動公園の飛込み設備については、長い間使用していなかったのか？

○小川委員(野幌総合運動公園事務所長)

所管施設のため、私からお答えする。私が赴任する前から使用はしていなかった。野幌総合運動公園の設立がはまなす国体の時なので34年間くらい経過しているが、その間大きな大会も無いため使っていない。

また、不具合について聞いている話では、高校生のインターハイということで10mくらいの高いところからの高飛込と飛板を使う飛板飛込があるが、このうち飛板飛込の板は、製造から5年以内である必要があるが、5年以上経過しているため、板を借用して対応し、支障ないという話であったが、最終的には、板は借用できず、土台も更新しなければならないということが分かり、時間も費用も捻出が難しいということで北海道が判断した。

○花井副会長

今後、改修する見込みはあるか

○小川委員

現状では未定である。

(4)審議事項

審議事項(1)第6期スポーツ推進計画の評価について

・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ課主査)

審議事項(1)第6期江別市スポーツ推進計画の評価について、説明する。

資料の6ページをお開き願う。

現計画の第6期江別市スポーツ推進計画は、令和5年度をもって計画期間が終了することから、スポーツ推進審議会委員の皆さまに現計画の推進状況を評価いただくことになっている。

現計画の評価は、令和4年5月に企画政策部政策推進課が実施した、まちづくり市民アンケートの回答数値を成果指標として行っている。

アンケートは、江別市在住の満18歳以上の市民を地区別、男女別、年齢階層別の人口比率に応じて、3,000人を無作為に抽出し、異なる質問項目のA票とB票を、それぞれ1,500人ずつ配布して実施した。回収率は44.2%となっている。

このアンケート結果を元に、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性などから、3つの基本目標を5段階で評価した事務局案を説明する。

7ページをお開き願う。

はじめに、1 生涯スポーツの推進「週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合」だが、「アンケート B票 問28 あなたは、普段どれくらいスポーツをしていますか」に基づき、週に1回以上運動している市民割合を表している。

新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、数値が上昇した後、下降していましたが、回復の兆しを見せている。

60～64歳男性の数値は低い傾向があり、定年に伴う環境変化が影響していると考えられる。

また、10～20代の男性は回答数が低いため、極端な数値となっていると考えられるが、健康に自信があるため運動に意識がいかないという傾向もある。

特に65歳以上の年代は数値が高く、男女ともに50%以上が、週1回以上スポーツをしていると回答している。

逆に20代の女性は子育ての影響か数値が低くなっており、今後の課題と言える。

以上から、事務局では、5段階評価の4 ある程度目標を達成しており、上昇傾向があると評価した。

8ページをお開き願う。

次に、2 地域スポーツ活動の推進「スポーツ機会が充足していると思う市民割合」だが、「アンケート A票 問23 あなたは、生涯学習に関する項目について、どのくらい満足していますか 6 スポーツの大会や機会」に基づき、スポーツ機会が充足していると思う市民割合を表している。

新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、数値が上昇した後、下降していたが、ほぼ令和元年度の水準まで回復している。

あらゆる年代でスポーツ機会が充足していると感じている市民の割合は50%を超えており、現在中止となっている大会が再開されることで、更なるスポーツ機会の充足が見込まれる。

以上から、事務局では、5段階評価の5 目標を達成していると評価した。

9ページをお開き願う。

最後に、3 スポーツ環境の整備・充実「スポーツ施設整備の満足度」だが、「アンケート A票 問23 あなたは、生涯学習に関する項目について、どのくらい満足していますか 5 スポーツ施設の整備」に基づき、スポーツ施設整備の満足度を表している。

新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、数値が上昇した後、下降していたが、ほぼ令和元年度の水準まで回復している。

あらゆる年代でスポーツ環境整備についての満足度は高くなっている。指定管理者と連携し、施設の維持修繕に努めていることもあり、スポーツ環境に

ついて満足度が高まっていると考えられる。

以上から、事務局では、5段階評価の5 目標を達成していると評価した。

【質疑等】

○小林委員

質疑ではないが、情報提供として。

先日、「地域スポーツを考える」という講演に参加した。その講演では、「現在スポーツは多様性の時代となっている」、「ライフステージに対応した楽しみ方」、「コロナにおける社会情勢によりスポーツの在り方が変わってきている」という話があった。

他に「プログラムサービスの必要性」、「機会の提案を基本とする」、スポーツをする人の目的としては「技術の向上」、「健康・体力の保持」、「仲間づくり」がある。

また、アンケートやパンフレットの配付場所を考える。張る場所や置き場所を考えるということで、体育館に行く人はスポーツをする人であり、スポーツをしない人は体育館に行かない。体育館に置くのではなく、多くの人が目にする場所に置くのがよいだろうという話があった。

参加者の人集めと言う話もあったが口コミがいまでは一番効果的だろうということであった。

国では「する、みる、支える」という進め方であるが、いまではそれに加えて「しらべる」ということが重要になってきている。「いつでも、どこでも、いつまでも、だれでも、気軽に」という欲求を充足させることが大切であり、それが自発的な運動、スポーツ活動に繋げるということだという話であった。

この場で必要なことか分からなかったが、情報提供をさせていただいた。

○花井副会長

小林委員の話に絡め、「いつでも、どこでも、いつまでも、だれでも、気軽に」という中で、なかなか(スポーツに)時間をとれない世代がスポーツをするというのは難しいので、今、大学では遠隔でスポーツの配信プログラムを行っていたりしているので、そういうことも情報発信していくというはあると思う。

○小林委員

社会背景が変化しているということを重点に考えるのもひとつの方法ではないかということだった。

○花井副会長

色々な方法をみんなで考えていく必要があると考える。

○金内会長

こういう色々なことを参考にしていきたい。

審議事項(2)第7期江別市スポーツ推進計画の策定について

・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ課参事)

審議事項(2)第7期江別市スポーツ推進計画の策定について、説明する。

資料の10ページをお開き願う。

まず、策定の趣旨だが、江別市スポーツ推進計画については、スポーツ基本法に基づく国のスポーツ基本計画を参酌し、地域の実情に即したスポーツの推進に関する施策について定める計画である。

次に、計画の位置付けだが、国や北海道の計画を参酌し、「江別市総合計画」が示す「まちづくり政策」に沿って策定されるスポーツ分野の個別計画として位置付けられるものであり、市長が定める「江別市教育大綱」をはじめとした、各種計画との整合性を図り、市民意見の反映に努めながら、江別市の地域性を踏まえた計画として策定した。

次に、計画期間であるが、現行計画である第6期の計画期間は、平成31年度から令和5年度までの5か年となっており、次期計画の第7期についても、令和6年度から令和10年度までの5年間とする。

次に、策定方法だが、教育委員会からの諮問を受け、スポーツ推進審議会による審議をし、教育委員会へ答申を行うこととなる。その他、庁内会議の設置及び開催、議会への報告、計画素案について関係団体からの意見聴取、パブリックコメントによる市民意見の反映、まちづくり市民アンケートの活用が、主な策定方法である。

11ページをお開き願う。

次に、策定スケジュールだが、この表は、令和4年度から5年度までの2ケ年度に亘って作成したスケジュールとなっている。縦が年(ねん)・月(げつ)別、横が教育委員会・スポーツ推進審議会・庁内会議・議会と区分している。

スケジュールの概略は、本年12月、教育委員会からスポーツ推進審議会へ計画諮問を行い、それを受けて令和5年7月頃にはスポーツ推進審議会による計画素案の立案、さらにはパブリックコメントや関係団体からの意見聴取を踏まえ、12

月頃にはスポーツ推進審議会から教育委員会へ答申し、令和6年1月頃には教育委員会において計画案の審議決定をする予定となっている。

続いて、計画の策定方針について、説明する。

12ページをお開き願う。

はじめに、「計画策定の背景と趣旨」だが、江別市教育委員会では、「生涯スポーツの推進」の観点に立ち、昭和60年に第1期江別市スポーツ振興計画が策定されて以来、5年毎6期にわたり、様々な施策に取り組んできた。

今日、少子・高齢化により、スポーツに参画する者やそれを支える担い手の不足、学校部活動や地域におけるスポーツ・運動環境の維持が困難になるなど、あらゆる世代のスポーツ機会の確保が急務となっている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響でテレワークやオンライン利用が加速され、生活時間の使い方にも変化が生まれようとしている中、毎日の生活の中でスポーツに親しむ時間や環境を確保することが求められている。

国においては、こうした社会変化などに対応するため、令和4年度から令和8年度を計画期間とした「第3期スポーツ基本計画」を策定している。

また、北海道においては、スポーツを通じた「持続可能な社会の実現」を目指し、令和5年度から令和9年度を計画期間とした「第3期北海道スポーツ推進計画」の策定作業を進めているところである。

江別市においても、平成29年度の「健康都市宣言」を背景として、市民の健康づくりとスポーツ活動の関連づけなどを含め、時代の変化に対応した生涯スポーツ推進の新たな展望と目標を提示する必要がある。

これらのことを踏まえ、これまでのスポーツ推進政策における取組の継承と、だれもが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツ社会の実現を目指し、「第7期スポーツ推進計画」を策定するものである。

13ページをお開き願う。

次に、「計画の性格と期間」だが、本計画は「江別市学校教育基本計画」、「江別市社会教育総合計画」と合わせて、教育基本法第17条第2項に規定する、地方公共団体が地域の実情に応じ策定する、教育の振興のための施策に関する基本的な計画に位置付けられている。

また、国の第3期スポーツ基本計画及び第3期北海道スポーツ推進計画を参酌するとともに、江別市の最高規範である「江別市自治基本条例」に基づき策定予定の「第7次江別市総合計画」に示されている分野別の政策「まちづくり政策」に沿って策定されるスポーツ分野の個別計画としても位置づけられている。

あわせて市長が定める江別市の教育、学術及び文化の振興に関する「教育大綱」に掲げられている「基本理念」、「基本方針」、「基本目標」が、上記の総合計画及び教育分野の各個別計画に充てられていることを念頭に置くものである。

計画策定におけるこれらの基本的な考え方に併せ、市の関連計画である「えべつ市民健康づくりプラン21」、「江別市男女共同参画基本計画」及び「障がい者支援・えべつ21プラン」などとの整合性を図りつつ、市民アンケートやまちづくりアンケートのほか、パブリックコメントなどを通じて得られた市民からの意見の反映に努め、江別市の地域性を踏まえた計画として推進する。

【質疑等 → なし】

(5)その他

○事務局(スポーツ係長)

今年度の江別市スポーツ審議会の開催は全部で3回の予定で、次回の審議会の開催は、2月頃を予定している。時期が来たら改めてお知らせする。

○議長(金内会長)

以上をもって、令和4年度第2回江別市スポーツ推進審議会を閉会する。

(6)閉 会(午前11時00分終了)